

## 令和4年度 学力向上を図るための授業改善推進プラン

教科：技術・家庭科（家庭分野）

### Research ⇒ 現状分析・課題把握

- 1年生・・・【授業、実技テスト、作品、定期考査などの分析】⇒第三中学校の授業規律や授業内のルールについて初回の授業で説明をしている。どの生徒も、授業への取り組みは意欲的である。家庭生活領域では、現在の家庭生活での問題を見出すことで、解決策をそれぞれの生徒が構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現することができた。考査の正答率は5割であったので、実技面からの知識の習得が課題と考えられる。
- 2年生・・・【授業、実技テスト、作品、定期考査などの分析】⇒三中ルールが身に付き、授業意欲、態度も非常によい。「スウェーデン刺しゅうペンケース」の製作では、経過チェックでペースに差はあるが、どの生徒も基礎的・基本的な技能は身に付けている。食生活領域では、現在調理実習が行えないので、調理技能を身に付ける機会が授業内にないことが課題である。それに代わる夏休み課題を課したが、2学期は実践的な経験ができることが望ましい。考査の正答率は7割である。
- 3年生・・・【授業、実技テスト、作品、定期考査などの分析】⇒三中ルールが身に付き、授業意欲、態度も非常によい。幼児領域では幼児の特徴、生活習慣について主に学習してきた。家庭を持ち、自立した際に、家族と共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むための工夫を考えられた。考査の正答率は6割強である。

### Plan ⇒ 課題解決のための主な取り組み(計画)

#### 《Ⅰ 基礎的・基本的な知識・技能の『習得』》

- 1年生・・・「キャンバストートバッグ」製作では、小学校で学習した基礎技能の定着、中学校で扱う応用技能の習得を行わせる。実技試験を行い、生活に必要な技能は確実に身に付けさせる。基本的な知識の習得については、ハンドノートでの活用を行わせる。
- 2年生・・・「スウェーデン刺しゅうペンケース」製作は仕上げに入るので、日常使用する裁縫の基礎技能を繰り返し行い定着させる。食生活領域では、基礎的なことに加えコロナ禍での生活で衛生的にどのような対策が必要であるかも含めて学習させる。可能ならば調理実習での調理技能の定着を図る。
- 3年生・・・幼児領域の分野では、幼児の基本的な生活習慣や社会的な生活習慣について学び、幼児を育てていくときの家庭環境について学習させる。消費生活領域では、目まぐるしく変わる消費生活において様々な手段で情報を得て、どのように活用するかを学習していく。

#### 《Ⅱ 思考力・判断力・表現力等の『活用』する力の育成》

- 1年生・・・製作においては基本を確実に習得させる。住生活領域では、感染症予防対策や、災害に備えた対策などに対して、臨機応変に行動できるよう、ICT機器の活用で多くの解決策を考えさせる。
- 2年生・・・「スウェーデン刺しゅうペンケース」製作では、「対話的な学び」を入れグループで効率よく作業する工夫を模索する考え方を広めさせる。食生活領域では、持続可能な食生活を目指し、思考・判断をして生活していく工夫を養わせる。
- 3年生・・・家庭生活幼児分野では、消費生活領域では、自立した社会生活を送るための価値判断が正確にできるようにワークシートやICT機器を活用させ学習させていく。「対話的な学び」を入れ思考力・判断力・表現力を身に付けさせたい。

#### 《Ⅲ 『学ぶ意欲や態度』の向上、学習習慣の定着》

- 1年生・・・衣・住生活の学習において身近な課題を見つけ、より生活が豊かになるよう、ハンドノートやICT機器を活用させ、技能や知識をうまく活かせるよう繰り返し学ばせる。
- 2年生・・・今まで習得した知識や技術を積極的に活用して、生活を工夫したり創造したりする、実践的な態度が備わるようにさせる。普段、生活するにあたって、身の回りのことに着目させ、より生活力が向上するようハンドノートやICT機器を活用させ学習させる。
- 3年生・・・中学校での学びの集大成として、今まで学んできた知識や技術を、ICT機器を活用させ確認しつつ、よりよい自立した生活が送れるようにさせる。